

第四回 帝國議會 貴族院議事速記録第三十三號

明治二十六年二月二十日(月曜日)

午前十一時二分開議

議事日程 第三十三號 明治二十六年二月二十日

午前十時開議

- | | |
|------------------------|------|
| 第一 版權法案(衆議院提出) | 第一讀會 |
| 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | |
| 第三 出版條例改正案(衆議院提出) | 第一讀會 |
| 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 | |
| 第五 官報及官有鐵道客車ニ廣告揭示ノ請願 | 會 議 |
| 第六 產馬事業保護ノ請願 | 會 議 |
| 第七 郡域替ノ請願 | 會 議 |
| 第八 千島事業保護ノ請願 | 會 議 |
| 第九 昆布輸出稅免除ノ請願 | 會 議 |
| 第十 牛疫撲滅處分ノ請願 | 會 議 |

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 取引所法案特別委員會ニ於キマシテ委員長ニ川田小一郎君、副委員長ニ小室信夫君當選ニ相成リマシテゴザイマス、一昨十八日衆議院ヨリ廻付ニナリマシタ政府提出商法及商法施行條例中改正並施行法律案ヲ受領致シマシテゴザイマス、本日ノ議事日程第一、版權法案第一讀會ヲ開キマス、條數モゴザイマスニ依ッテ通牒文ノミヲ朗讀致サセマス、

〔木内書記官朗讀〕

一版權法案

右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也

明治二十六年二月十五日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

衆議院議長 星

享

〔左ノ法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメニ此ニ載録ス〕
版權法

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ
第二條 出版法ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケント欲スル者ハ發行前登記料トシテ製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登録ヲ內務省ニ願出ヘシ但シ六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サルモノハ五十錢トシ十圓ヲ超ユルモノハ十圓トス
版權登録ノ文書圖書ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登録後定價ヲ増加スルモノハ其ノ未納額ヲ內務省ニ追納スヘシ但シ追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム
第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登録ヲ得ント欲スルトキハ其ノ由ヲ內務省ニ通知スヘシ
第五條 版權登録ノ文書圖書ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサルモノハ登録ノ效ヲ失フモノトス
第六條 內務省ニ於テハ版權登録簿ヲ備ヘ置キ登録ノ願出アル毎ニ之ヲ登録シ登録證書ヲ下付スヘシ
第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル講義若ハ演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權侵害ト認ムルノ限リニ在ラス
翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス
官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其ノ官廳學校會社協會等ニ屬スルモノトス
二種以上ノ著作若ハ講義演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス
書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス
第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得
第九條 版權登録證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
版權登録證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登録ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登録ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並ニ著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ每號其出版ノ月ヨリ起算ス但シ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ
雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ
版權登錄ヲ得タル文書圖書ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖書ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖書ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作人又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキハ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末偽版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解附録繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス
公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ模擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作人又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經スシテ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 內國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時效ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一年以上以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖之ヲ改竄シテ著作人ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作人ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ヲ詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作人又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ

例ヲ用井ス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス
第三十二條 従前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タルモノ、版權年限ハ従前ノ
條例ニ依リ計算スルモノトス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

別段御發言モナイト認メマスニ依ッテ議事日

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

程第二本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス、

○子爵松平信正君 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ハ議長ノ指名

ニ委任シタイト申ス動議ヲ提出シマス、且ツ加フルニ最早會期モ切迫シテ居

リマスカラ豫メ時日ヲ約シテ委員ニ付託シタイト、即チ二十三日中ニ報告ニナ

ル様ニ期日ヲ定メタイト考ヘマス、即チ議長ノ指名ニ任セ其委員ノ審査ノ時

日ヲ定ムルト云フ動議ヲ提出致シマス、

○男爵西五辻文伸君 松平子爵ノ動議ニ賛成、

○侯爵中御門經明君 松平子爵ノ動議ニ賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 松平子爵ノ動議ノ決ヲ採リマス、即チ委員選

舉ハ議長ニ付託シ且ツ二十三日中ニ報告スルト云フコトニ期限ヲ定ムルト云

フノ動議デアリマス、此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ議事日程第三、出

版條例改正案、衆議院提出、第一讀會ヲ開キマス、是レモ通牒文ノミヲ朗讀

致サセマス、

〔本内書記官朗讀〕

一出版條例改正案

右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也

明治二十六年二月十五日

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

衆議院議長 星

亨

〔左ノ法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ掲載ス〕

出版法

第一條 凡ソ機械含密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印

刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂

シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者

ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ

此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此

ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三

日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本

二部ヲ内務省ニ送付ヘシ

第五條 出版届ハ著作又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ

但シ非賣品ハ著作又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作又ハ其ノ相續者ヲ知

ル可ラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校會

社協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但

シ著作又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書

ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書

ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘ

シ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ

印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載

スヘシ

第九條 書簡通信報告社則塾則札諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫真

ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十

八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ

依テ處分ス

第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續

ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略ス

ルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキ

ハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖

若改正増減シ又ハ註解附録繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作トス但シ

筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆

記者ヲ著作ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條

第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說講義ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信社ニ於テ筆記シ其ノ新聞若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル講義若ハ演說ノ外ハ其ノ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其ノ文書圖書ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十三條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ社名アルトキ印刷所及社名ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 國憲ヲ紊亂セントスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者ヲ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第三十條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十一條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十二條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十三條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第三十四條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十五條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ內務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十六條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程第四、本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移リマス、

○男爵西五辻文仲君 此案ノ特別委員ノ選ビ方ハ矢張り前ノ版權法案ノ委員ヲ御選ビニナリマシタラバ夫レト共ニ付託ヲ致スト云フ動議ヲ提出致シマス、

○子爵堤功長君 西五辻男爵ニ賛成、

○子爵稻垣太祥君 賛成、

○男爵西五辻文仲君 夫レニ此日限ノ所モ矢張り先刻松平子爵ヨリ提出ニナッタト同様ニ二十三日迄ニ報告ナル様ニト云フコトヲ……

○侯爵中御門經明君 西五辻男爵ノ動議ニ賛成致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 西五辻男爵ノ動議ハ本案ヲ版權法案ノ委員ヲ議長ニ於テ選定致シマシタモノト同一委員ニ付託ヲスル、且ツ日限ハ矢張り二十三日中ニ報告ニナル様ニ審査期限ヲ定ムルト云フ動議デ、此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ議事日程第五、官報及官有鐵道客車ニ廣告揭示ノ請願會議ヲ開キマス、朗讀ヲ致サセマス、

〔木内書記官朗讀〕

意見書案

官報及官有鐵道客車ニ廣告揭示ノ件

愛知縣海東郡越治村平民富田宗三郎呈出

右ノ請願ハ官報及官有鐵道客車中ニ相當ノ料金ヲ徴收シテ農工商業者ノ廣告揭示ヲ許可シ農工商業者ノ改良發明販賣ノ事ヲ報道傳播スルニ便利ナラシメラルレハ其進歩發達ヲ助クルノミラナス國庫ノ歳入ヲ増加シ事業ヲ擴張スルニ足ルヘシトノ旨趣ニシテ人民ノ廣告ヲ官報ニ掲載スルハ事業ニ於テ不可ナリト雖官有鐵道客車中ニ廣告揭示ヲ許可スルノ一事ハ農工商業者ニ便利ヲ與ヘ國庫ノ歳入ヲ増スヘキヲ以テ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○松岡康毅君 請願委員ノ之ヲ採擇スベシト致シマシタ大要ヲ申述ベマスル、請願ノ旨趣ハ官報ト官有鐵道ノ車ノ中トヘ農工商業者ノ廣告揭示シタイト云フ請願デゴザリマスルガ、委員會ニ於キマシテハ官報ヘ農工商ノ廣告類ヲ載セルト云フコトハ宜シクアルマイ、畢竟官報ト云フモノノ性質ハサウ一人一人ノ營業ノコトニ關スル廣告ナドヲ載セルハ性質ガ違フデアラウ、去ナガラ鐵道ノ車ノ中ヘ官設ト雖モ人ノ交通スル客車ノ中ヘ廣告ヲ掲グサセルト

云フコトハ是レハ差支ナキノミナラズ隨分公衆ノ利益ニモナルデアラウト云フ理由ヲ以チマシテ官報ヘ載セルト云フ廉ハ採擇スル限ニアラズトシテ鐵道ノ客車中ヘ農工商業者ノ廣告ヲ掲ゲルコトハ許シタ方ガ宜カラウト申スノデ請願ノ一部分ヲ採擇スベキモノト議定ヲ致シマシタ譯デアリマス、是レ丈ケ御報告致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發議ガゴザイマセスケレバ本意見書案ノ決ヲ採リマス、本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ產馬事業保護ノ請願會議ヲ開キマス、

〔木内書記官朗讀〕

意見書案

產馬事業保護ノ件

宮城縣栗原郡玉澤村平民南條文五郎外二百九十七名呈出

右ノ請願ハ產馬業ハ第一、戰時ノ騎乘ニ於ケル第二、貨物ノ運輸ニ於ケル第三、田圃ノ耕耘ニ於ケル皆必要缺クヘカラサルモノニシテ其盛衰興廢ハ實ニ軍事、工業、農事ト至大ノ關係ヲ有シ其事業ノ性質タル國家ニ屬スヘキ個人ニ一任スヘキモノニ非ルナリ維新前ニ在テハ幕府諸藩ノ馬政ニ注意スルコト頗ル周到ニシテ其保護獎勵ニ要スル經費ハ皆藩帑ヲ出シテ之ヲ支辨セリ維新後ニ在テモ官立種畜場ノ設置、牧畜資金ノ貸與、家畜共進會ノ德憑、種牛馬貸與規則及其取締規則等ノ發布アリテ銳意其發達ヲ企圖セラレタリシニ近年ニ至リ或ハ其ノ法ノ廢止セラレタルモノアリ或ハ名アリテ實ナキカ如キモノアリ今ニ於テ之ヲ國家事業ト爲シ之ヲ鼓舞振作スルニ非レハ斯業ノ恢復得テ望ムヘカラストノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊五通及送付候也

○松岡康毅君 此產馬事業ノコトニ付キマシテノ請願ハ宮城縣外福島縣等合セテ五通ノ請願ガ出テ居ルノデゴザリマス、何レモ同趣意ノモノデゴザイマスカラ一ツノ名ヲ掲ゲテゴザイマスルガ請願書ハ五通アルノデゴザイマス、是レニハ段々履歷モゴザイマスルシ從來カラ成立ッテ居ルモノデゴザイマシテ產馬ノ事業ニ就テハ隨分全國内ニ重要ノ關係ノアルモノデゴザイマシテ委員會ハ之ヲ採擇スベキモノト致シマシタ、尙ホ其事ニ付キマシテハ渡邊男爵ガ能ク熟知致シテ居リマスルカラ是レヨリ外ノ事柄ハ渡邊男爵ヨリ申立ル筈デゴザリマス、

○男爵渡邊清君 產馬事業ノコトハ御承知ノ方モゴザリマセウト思ヒマ

ス、且又此業柄ハ大概要用ナコト云フコトハ諸君モ御承知ノコト、且ツ此請願モアリマスルコトデアリマスカラ別ニ本員カラ申上ゲマスル迄モナイト考ヘマス、併シ若シ他ヨリ御質問ガアリマスレバ本員ノ承知シテ居ル丈ケハ答ヘマセウト考ヘマス、

○子爵松平信正君 即チ御質問ヲ致シマス心得デゴザリマス、松岡君ナリ渡邊君ヨリシテ御辯明ヲ願ヒマス、即チ此請願書ノ大意ヲ掲ゲテアリマスル、色々維新後ニモ獎勵ノ方法規則等モ出タガ即チ近年ニ至ッテハ其法ガ止メニナリ、又名アッテ實ガナイ、故ニ今ニ當ッテ國家事業トシテ鼓舞振作シナケレバ此業ノ恢復ハ望ムベカラズト云フ大意デ請願委員ヨリ御報道ニナリマシタガ、其實況ヲ一應御承知ノ御方、即チ渡邊君ノ如キ御方ヨリシテ現在ノ產馬事業ノ有様ヲ伺ヒ、且ツ之ヲ國家事業トシテ鼓舞振作スルニハ如何ナル方法ニ據ルカ、其鼓舞振作ノ方法ヲ併セテ伺ヒタイ、且又國家事業トシテ鼓舞振作シナケレバナラズト云フテ漠然ト掲ゲテアリマスルノミデハ如何様ノ方法ヲ以テ此產馬事業ヲ鼓舞振作スルヤ否ヤ分リマセヌカラ、私ハ一應松岡君ナリ渡邊君ナリノ御説明ヲ煩ハシタウゴザリマス、

○男爵渡邊清君 御尋トアレバ已ムヲ得マセヌ、併シ本員モ委イコトハ存ジマセヌガ一ト通り承知セヌデアリマセヌ、承知シテ居ル丈ケヲ申上ゲヤウト考ヘマスルガ……

〔男爵伊達宗敦君「渡邊君ニモウ少シ大聲ニ願ヒマス、折角ノ御辯明デモ聲ガ低クテ聞エマセヌカラドウカ御大聲ニ願ヒマス」ト述フ〕

〔男爵渡邊清君演壇ニ登ル〕

○男爵渡邊清君 此產馬事業ト云フ其最モ產馬ノ重モタルハ諸君御承知ノ通り奥羽地方デアリマス、デ其奥羽地方既ニ二十餘藩ノ藩々何レニモ此法ハ備ッテアリマス、又幕府ヨリ之ヲ保護スル所モ隨分有ッテ趣デゴザリマス、夫レデ藩々デ其制度ハ段々變ハリマスル趣デゴザリマス、其變ッテ居ルトハ云ヒナガラ大體ヲ申スト大同小異デ、先ヅ大略ヲ舉ゲテ申シマスル所種馬ノ宜シイノヲ地方ヨリ選抜ヲ致シマシテ、此種馬ナルモノハ藩ノ所有地即チ藩廳ニ於テ藩ノ役人ヲ致シテ蓄ハセテ藩廳デ先ヅ蓄フタモノト見エマスル、其蓄フテ居ル所ノ種馬ハ或ハ數十頭ニ登ル所ガアル、是レ等ヲ皆然ルベキ、先ヅ福島縣内デアルト三春地方、三春地方デモ其場所ヲ七箇村ナドヲ選ビマシテ、又仙臺藩デモ同様ナコト、盛岡地方何レモ此場所ヲ……牧草ノ良ク且ツ育チノ宜イ所ヲ選ンデサウ云フ箇所ニ種馬ヲ貸シタモノデゴザリマス、デ其生ミ落シタル子ト云フモノハ直ニ人民ノ所有物トハナリマセヌ、即チ之ヲ翌年ノ、即チ二才、二才ノ子ノ時ニ所々ニ糶場ガアッテ其糶場ニ出シテ例ヘバ此馬ガ十五圓、此馬ガ二十圓ト云フ所ノ買手ガ附イテ相場ガ定マル、相場ガ

定マルト即チ或ハ二割、或ハ二割五分トカ三割トカ云フ二十圓ニ三割ヲ加ヘテ其三割ノ金額ヲ藩廳ニ收入シタモノデアアル、デ其世話ト云フモノハ一切藩廳デヤッテ有ッテ、其金ヲ或ハ馬稅ト唱ヘル所ガアリ其他名稱ハ色々アリマセウガ先ヅ一ノ租稅ノ……藩ノ租稅ノ一ツニナッテ居リマス、ソコデ其事務ハ皆藩廳デ世話ヲシテアッタ、既ニ是レニハ餘程來歴ガ藩々デ違ヒマスルケレドモ大概ハ皆夫レデアッタ、ソコデ奥羽地方ト云ヘバ即チ諸君モ御承知ノ通り日本ノ馬ト云ヘバ奥羽ト何レモ唱ヘヌ所ハナク、且又名馬ト云ヘバ必ズ奥羽ノ地方ニ出來タモノデアリマス、獨リ乘馬ニ入用ノモノハカリデナク他ノ農馬ニ致シマシテモ、或ハ運送駄馬ニ致シマシテモ皆此產ヲ古ヨリ賞讃ヲ致シマス、抑、其制度ノ立チマシタノハ餘程古イコトデ百年前ヨリノ振合ヒデアリマス、デ其交易ハ大概此關東ハ勿論關西ニ至ル迄諸方ニ及ビマシテ既ニ乘馬ナドニナリマスレバ九州迄ニモ及ンダデアリマス、所ガ維新後廢藩ニ連レドウモ此關西ノ方ハスッカリ止マッタ、此事ハ止マッタガ此產馬ノ業ハ全國ニ關係ヲ持ッタモノデアアルニ付テ之ヲ止メテハ全國ノ軍事ナリ農事ナリ其他ニ甚ダ不利益、依ッテ現今ニ於テ種々ニ此取扱ノ仕法ハ變ハリマスケレドモ矢張り前キノ產馬業ヲ繼續ヲ致シテヤッテ有ッテ、中ニモ宮城縣、福島縣、巖手縣ナドハ最モ注意致シテヤッテアル、其ヤリ様ト云フモノハ隨分此產馬事業デハ右ノ振合ヲ採リマスカラ金ハ澤山集マル、例ヘバ福島縣デアルト唯今ハ一縣ニナッテ居リマスカラ一縣内デ云フト大概一年デ四萬頭位ノ產馬ガアリマスカラ之ヲ平均十圓トシテモ夫レママー一割ニシテモ仰山ナモノニナリマス、夫レヲ藩制ノコトニスレバ二割三割モアッタノヲ夫レヲ福島縣内デハ一割ト定メタ、其一割ノ金ヲ以テ種馬ヲ買入レテ矢張り藩制ノ通りニ致シタイト云フノデ最前ハ縣廳デ其仕事ヲ致シテ居ル、是レハ他ニ斯様ナコトハゴザイマセヌ、唯奥羽地方バカリデスガ、夫レ故ニ特別ニ當時ノ內務省デ許可ヲ致シテヤラシテ有ッテ、夫レニ付テハ亦其時分ニ內務省ヨリ貸金モ、下ゲ金モアッタノデゴザリマス、又藩々ニ依ッテ此產馬ニ付テハ隨分貯蓄金モアッタ、其貯蓄金ヲ合セテ其事業ノ方ニ一所ニ纏メタ所モアリマス、所ガ追々此府縣ノ會計ガ精密ニナリ、官民ノ區別ヲ明ニ立テナケレバナラヌコトニナリマシテ、福島縣ナドデハ其後十二年デゴザイマシタカ民業ニスッカリ移シテ仕舞ッタ、其民業ニ移シタノハドウシテ移シタカト云フト即チ人民ニ於チ一ノ會社ヲ立テマシタ、其會社ニ是レ迄ノ事務ト金ヲ纏メテ委託ヲシタ所ガ其會社ナルモノハ夫レデマダ金ガ足ラヌモノデスカラ株金ヲ集メテ設立致シタ、是レモママー十分ノ方法トハ申サヌケレドモ先々夫レデ繼續ヲ致シマシタ、又宮城縣ナドハ是レモ一ノ會社組織デアッテ是レハ各人民ヨリ請フ所デアッテ知事ガ自ラ其會社ノ委員長トナッテヤッテ居リマス、是レモ一ツノ方法デ

アリマスケレドモ皆其一割ヅ、ノ糶場デ徵收スルハ大概同ジ様ナコトデヤツテ居ッタ、デ全ク縣廳ノ仕事ノ様ニハアリマスケレドモ即チ知事ノ資格デナクシテ委員デヤツテ居ルノデスカラ縣廳ノ仕事トハ申サレマセヌ、デ其他大概夫レデヤツテ居リマシタ所ガドウモ是レニハ色ト弊害ノ起ルト云フノハ福島縣ナドデアルト様式ノ様ナ所謂營利株式會社ト云フ様ナコトニナツテ遂ニ此藩ノ時分ノ產馬改良ト云フ趣意ガスッバリ無クナツテ唯金ヲ得レバ宜イト云フノデ、宜イ種モ出來ルケレドモ其種ハ少シク直段サハ宜ケレバ賣ツテ仕舞フト云フコトデスッバリ種ヲ失フ様ナコトニナツタ、又牝牡トモ同様デアリマス、夫レ故ニ何レモ馬格ヲ損シテ近來ハ大體ニ甚ダ不利益ニナツテ例ヘバ賣買ノ平均ガ三十圓ニ上ル所ガ近來ハ十圓位シカ往カヌト云フカラ其土地ニモ不利益又天下ニ涉ル所ノ馬格モ惡ルイカラ是レモ亦不利益、夫レデ陸軍ナドハ之ヲ嘆ジテ色ト方法ヲ立テヤウトシテモ中々容易ニ立チ兼ネル、ソコデ昨年來福島縣宮城縣巖手縣青森縣秋田ナド云フ縣ガ集リマシテ宮城縣所謂仙臺地方ニ會ヲ致シテ色ト相談ヲ致シマシタ、依ッテ此產馬業ニ從事ノ者ガ其會議ニ寄ッテ一ノ方法ヲ編ミマシテ之ヲ農商務大臣ニ出シタコトガアリマス、即チ此請願ニモ農商務大臣ニ出シタ請願書ガ添フテ參ッテ居リマス、其趣意ト云フモノハ各縣銘々色トナ方法ヲ立テヤルケレドモ何分ドウモ此馬格ノ品等ヲ定ムルコトガ公ニ之ヲ定メテ貰ハシメ銘々ノコトデハ本當ニ其實ヲ得ル譯ニハ往カヌ、且又馬籍ヲ能ク調査シテ其馬ニハ付セネバナラスト云フコトハ能ク分ツタコトデアリマス、是レモドウモ届カヌ、唯營利上カラ出ルモノデゴザリマスカラサウ云フ所マデ手ガ届カヌ、夫レ故ニ全體ノコトハ縣々又ハ所々デ如何様ニシヤウトモ兎モ角モ此共進會ノ如キ或ハ馬ノ品格ヲ定ムル調査場ノ如キ或ハ馬籍ヲ吟味スル事務所ノ如キ一ツ仙臺アタリニ官設デサウ云フ役所ヲ置イテ貰ヒタイ、ト云フモノハ澤山ノ費デモナシ、奥羽地方皆之ニ倣フテ或ハ其役所ヨリ出張シテ貰ッテアチラコチラデ右ノ調ベヲスル様ニナルト大イニ全國ノ公益ヲナスノミナラズ軍事上モ此タメニ其益ヲ得ルコトガ多カラウト考ヘルト云フ様ナコトデ其書面ハ農商務大臣ニ出シテアルノデアリマス、デ此請願書ハ農商務大臣ニ出シテ居ルノハ全ク夫レ丈ケノ請願デアッテ、之ヲ國家事業トシテ貰ヒタイト云フ精神丈ケヲ以テ本院ヘハ請願ヲ致シタノデアリマス、其事業タルヤ何レ農商務大臣ニ於テ夫レ吟味ヲ致サレルコトデアリマセウケレドモ、兎モ角モ之ヲ國家事業トスルト云フコト丈ケノコトヲ本院ノ議決デ政府ニ出シテ貰ヒタイト云フノ意デアリマス、所ガ一ツ附隨シテ申シテ置キタイノハ各所各所ニ會社ノ如キモノガ唯今申ス様ニアルノデアリマス、所ガ商法ガ發布ニナリマスト皆是レハ廢メテ仕舞ハナケレバナラス、ト云フノハドウモ商法ノ法律ニ載ラスノデアリ

マス、載ラスノハ委シク申スニモ及バヌガ連モサウ云フ成立デアリマセヌカラ廢メナケレバナラス、廢スルニ付テハ何トカ此趣向ヲ附ケル策ヲシナケレバナラス、趣向ヲ附ケルニハ兎モ角モ調査場トカ何トカ云フモノ、保護スル場所カ一ツナイト又區々ニナツテ參ルノデアリマスカラドウカ其調査場丈ケヲ置クコトヲ早ク願ヒタイ、決シテ此產馬事業ノ種ヲ買入ル、金ナドヲ貰ハウト云フノデハナイ、是レハモウ先刻申ス通り其會社會社ニ隨分金モアルノデアリマス、故ニ此國家事業トシテ調査所等ノ如キモノヲ置イテ貰ハムタメニ此請願書ヲ出シタモノト見エマス、尙ホ御不分リテ御質問ガアレバ別段ニ申シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別段ニ御發議モゴザイマセネバ決ヲ採リマス、此意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ郡域替ノ請願會議ヲ開キマス、

〔木内書記官朗讀〕
意見書案

郡域替ノ件

茨城縣北相馬郡長崎村長古谷浩夫呈出
右ノ請願ハ長崎村ハ常陸國筑波郡諸村ト犬牙相接スルノ小村落ニシテ小貝川ノ一道筑波郡ト下總國北相馬郡トノ間ヲ流レ水利ノ關係及人情風俗ニ至ルマテ分明ニ兩郡ヲ區畫スルニモ拘ラス本村ハ小貝川ノ對岸ナル北相馬郡ニ屬シ損害ヲ蒙ル少カラサルカ爲ニ筑波郡ノ諸村ニ合併セントスルモ郡國ノ異ナルニ妨ケラレ又強テ北相馬郡ノ諸村ニ合併シ一ノ自治體ヲ組織センカ其不便不利益ニ前文ノ如シ故ニ將來獨立自治ノ體ヲ爲ス能ハサルハ勿論遂ニ孤立自ラ倒ル、ノ不幸ニ至ルヘキヲ以テ郡域ヲ變更セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○松岡康毅君 本請願ハ茨城縣ノ管轄中デゴザイマスケレドモ此小貝川ト申ス一ノ川境ニシテ東ノ方ガ筑波郡デゴザイマス、其川ノ西ノ方ハ相馬郡デアリマス、相馬郡ハ下總ノ國デ下總ノ國相馬郡長崎村ハ一箇村ハ小貝川ヲ隔テ、常陸ノ國筑波郡ノ土地ヘ飛地ニナツテ居ルノデ、ソコデ小貝川ト云フ川一ツガ全體國ノ境、郡ノ境トナツテ來ル、所ガ此長崎一箇村ガ國ガ違ヒ郡ガ違ヒ川向ヒニナツテ居リマス、ソコデ小貝川ノ堤防其他水害ノゴザリマス時デモ長崎村ノ一箇村ハ此書面ニモゴザイマス様ニ害ヲ蒙ルノハ即チ筑波郡ノ

方デ水害ヲ蒙ッテ其堤防ヲヤラナケレバナラヌケレドモ國ガ違ヒ郡ガ違ヒマスカラ外デ一向聯合シテ吳レヌ、夫レナレバ自分ガ下總ノ國ニ聯合シヤウト思ッテモ川ガ向合ッテ居リマスカラ少シモ利害ノ痛痒ヲ感ジテ吳レヌ、ドツチニ附クコトモ出來ヌ、全ク孤立ニナッテ國ガ違ヒ郡ガ違フ中ニ介在シテ居リマスカラ當時……郡區改正ノ當時デアル場合デアリマスカラ常陸ノ國ノ筑波郡ニ屬セラレタイト云フ請願デ、繪圖面モ出テ居リマスカラ且ツ此以前ニモ請願書ヲ出シタコトモアリマス、且ツ年來此事ニ付テハ其人民ガ力ヲ盡シテ居ル事實モ見エマスシ旁々委員會ニ於テハ採擇スベキモノト之ヲ議決シタ譯デアリマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 表決ニ付シマス、本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザリマス、次ニ千島事業保護ノ請願會議ヲ開キマス、

〔本内書記官朗讀〕

意見書案

千島事業保護ノ件

東京市小石川區小日向臺町平民岡本監輔呈出

右ノ請願ハ北海道千島國ハ其周圍本道ヨリモ長ク水産ノ豐饒ナル坤輿中多ク其比ヲ見ス而シテ實ニ我邦北門ノ鎖鑰タリ然ルニ該島ノ大半ハ邦人ノ跡ヲ存セス外國人ノ來テ其間ニ出沒シ密獵ノ利ヲ擅ニスル年々數百萬圓ノ多キニ及フ是レ國利上國防上一日モ忽ニスヘキニ非ス請願人ハ深ク之ヲ憂ヒ自ラ首唱シテ一社ヲ設ケ渡島者ヲ送リ其拓殖ヲ謀リタルコト數回ニ及ヘルモ絶海近寒ノ地ニ於テ至難ノ事業ヲ起スモノナルニ因リ各個人ノ力ノミニテハ容易ニ成功ヲ期シ難キヲ以テ五年ヲ一期トシ年々國庫ヨリ五萬圓ノ下付ヲ請ヒ毎年擇捉以南ノ九郡ニ二百人、得粒以北ニ三百人ヲ移シ奮テ其成功ヲ督勵セハ内地人ノ風ヲ聞キ移住スルモノ必ス多ク該島拓殖ノ業次第ニ盛ニ邊要警備ノ實亦是ヨリ舉カルヲ得ヘシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○松岡康毅君 此請願ハ大要ヲ申シマスレバ千島ノ擇捉得粒アタリヘ内地ヨリ移住ヲシテ開拓ヲシタイト云フノガ趣意デゴザイマス、此請願人ハ既ニ數年前ヨリ其目的ヲ立テマシテ昨年ノ夏十數人ノ人間ハ既ニ彼ノ地ヘ參ッテ現在移住シテ居リマス、ケレドモ御承知ノ千島ノコトデゴザイマスカラ餘リ

僅ノ人間デハ相共ニ生活スルコトモ出來ナイシ何レ其後トヨリ移住スルト云フコトハ約束ヲシ冀望モシテ先キニ參ッタ者ハ夫レヲ心當テニ待ッテ居ル、デ當年ハ數百人移住ヲシヤウト云フコトニ志ヲ極メタ同志者モ出來タノデゴザイマス、然ルニ彼ノ地ヘ參リマシテモ不便ノ土地デハゴザイマスルシ又移住ヲスルニハ夫レ相應ノ資本ノ入ルコトハ無論ノコトデゴザイマシテ、段々計畫ヲ立テマシタケレドモ何分資本ノ不十分ナルコトガ一番妨害ニナッテ居リマス、夫レ故政府ヨリ……國庫ヨリ資本金ヲ下付セラレタイト云フ願デゴザイマシテ其願フ所ノ目的ニハ凡ソ一年ニ五百人移サウ、擇捉以南ノ九郡ノ所ニ二百人得粒以北ノ所ニ三百人ト計算ヲ立テマシテ都合五百人、五百人ノ人ヲ年々移サウト致シマシテ其一年ニ移ス所ノ五百人ニ對シテ五萬圓國庫ヨリ補助金ヲ仰ギタイト云フノ趣意デゴザイマス、デ委員會ニ於キマシテハ此五萬圓ト云フ金ガ果シテ適當スルヤラ又其得粒ト擇捉ト分ケテ三百人二百人ナドト分配スルノガ適當ノモノヤラ其邊ノ所ハ委員會デモ分リマセヌ、併シ今日此北海道ノ忽ニスベカラザルト云フコトハ是レハ憂國人士ノ總テ同感ノコトデモアラウシ殊ニ北海道ト申ス中ニモ尙更千島デゴザイマス、千島トナリマスレバ如何ニモ内地カラ移住スルト云フ眞ノ志アル人モ少シ實跡モ是レマデ餘リナイノデアリマス、其所ヘ既ニ十幾人ノ人ガ移住ヲシテ居リマシテ後トカラモ行カウト云フ實際ソコマデモ張込デ居ルト云フモノデ見レバ兎モ角モ其業ハ國利國家ノ上ニ取ッテモ助クベキ事業、見殺シニスベキモノデモナカラウ、夫レ故ニ金額ノ所ヤ或ハ年限ノ所ノ如キハ孰レ十分ニ政府ニ於テ調査ヲシタ上デ適當ノコトヲセラレドモゴザイマセウガ兎モ角モ此土地柄ト多少ノ實跡ト此奮發ヲシタ所ノ志トヲ採リマシテ委員會ニ於テハ採擇ヲシテ政府ニ適當ノ取調ヲシタ上相當ノ手續ヲ盡サレテ然ルベキモノト云フコトデ本議ヲ求ムルコトニ決議ヲ致シマシタ譯デゴザイマス、

○男爵小澤武雄君 請願委員長ニ質問ヲシマスガ此五百人移スニ付テ五萬圓ノ金ヲ願フ、サウスルト一人ニ付テ百圓ニナルノデゴザイマスガ、其百圓ノ金ガアレバ斯ウ云フ方法ヲ以テ生活ノ途ガ立ツ永住ヲスル目的ガ立ツト云フ様ナ何カ事柄ガ此請願書ノ中ニハナイノデアリマスガ、若シ何ニモナイト云フト成程金ヲ貰ハレ、バ貰ッタ本人ニ於テハ夫レニ越スコトハナイデセウガ餘リ國庫カラ下付スルコトガ漠然デアアル様デアリマスカラ請願者ニハ其方法デモアルモノデアアルヤ否ヤト云フコトヲ承タリイ、

○松岡康毅君 御答ヘ致シマスルガ概算ノ見込書ト云フモノガ出テ居リマスノデ、夫レハ五萬圓ト立テマシテ其中一萬八千圓程ヲ永續資金ニ備ヘマシテ、五千五百圓程ガ獵船百艘、五百人ノ所デ此移住者十人ヲ一組ト立テテ一組ノ所ニ獵船二艘都合百艘、夫レヲ拵ヘル所ノ代價ガ五千五百圓、夫レカラ

三千七百五十圓ト云フモノガ鱈ダノ漁場ニ要スル所ノ立テ網曳網ト云フ網ノ代、夫レカラ又千五百圓程ガ鱈ヲ釣ル色ノ道具、夫レカラ段々斯ウ色ノ費目ニ付テ出來テ居リマスガ詰マリ五百人ノ人ガ參リマスニハ家モ建テナケレバナラズ行ク時分ニハ夫レ相應ノ物品モ持ッテ行カナケレバナラズ、アツチヘ參ッタ所ガ何モナイ無人境ト同様ナ所ニ參ラナケレバナラズノデアリマスカラ獵ノ道具モ持ッテ行カナケレバナラズ、家屋ノ如キモ拵ヘナケレバナラズ、種々ノモノニ仕拂ヲ附ケナケレバナラズト申ス所ノ所謂概算ハ出來テ居ルノデゴザイマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 他ニ御發議ガゴザリマセネバ表決ニ付シマス、本意見書案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザリマス、次ニ昆布輸出税免除ノ請願會議ヲ開キマス、

〔本内書記官朗讀〕

意見書案

昆布輸出税免除ノ件

北海道札幌國北二條西十二丁目士族武田則愛外九百十七名呈出
右ノ請願ハ昆布ハ清國ニ輸出スル水産中ノ首位ヲ占メ最近一箇年ノ輸出代價七拾萬圓餘ニ上リ之ニ依リ生活スル生産者ハ五千餘人、被役者ハ貳萬五千人ニ下ラス北海道東部沿岸ノ商業ニ農業者今日ノ繁盛ヲ來シタルハ昆布業發達ノ力ニ由ラスンハアラサルナリ而シテ其需用地タル清國ハ土壤ノ廣キ人口ノ多キ彼力如クナルモ其内部ハ海ヲ距ル甚遠ク海產ヲ貴重嗜好スト雖芝罘、天津等ニ輸入スル北海道昆布ハ品質佳良ナルモ價格ノ貴キカ爲ニ年々需用者ヲ減シ露國昆布ハ粗惡ナルモ價格ノ廉ナルカ故ニ漸ク其販路ヲ廣メ次第ニ我カ輸入額ヲ凌駕スルニ至レリ其故一二ニ止マラサルヘシト雖課税ノ輕重之カ一大原因タルヲ疑ハス我邦昆布ノ税率ハ第一海產干場税、第二收穫税、第三海外輸出税、第四清國輸入税ニシテ昆布百石ニ對スル税額ハ百圓餘ノ多キニ及ヒ加フルニ納税ニ係ル費用及組合費等亦少カラス而シテ其輸出税タル品位ト賣價ノ如何ヲ問ハス總テ同一ノ課税ヲ免レス翻テ露國產ヲ觀ルニ輸出税ハ全ク之ヲ蠲免シ尙ホ之ニ與フルニ輸出上特別ノ便利ヲ以テセリ是レ我ノ彼ト相競フ能ハサル所以ニシテ今ニ於テ米穀、硫黃、石炭ト同ク輸出税ヲ免除シ本業ヲ保護セラル、ニ非レハ決シテ其發達ヲ望ムコト能ハス其税額ノ如キ明治十年ヨリ二十四年ニ至ル十五箇年間ノ平均一箇年三萬千五百圓餘ニ過キス是等少額ノ爲ニ本業ノ販路ヲ縮メ露國ノ商勢

ヲ張ラシムルハ亦國家ノ長計ニ非ストノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也
○松岡康毅君 本請願ハ唯今御朗讀ニナリマシタ書面デ大要ハ盡シテアリマスカラ格別説明ノ要モゴザリマセヌガ詰マリ七十萬圓程年々揚ガル所ノ昆布……之ヲ賣ル所ハドコカト申セバ支那、夫レニ七十萬圓程ノ昆布ニ對シテ三萬圓餘ノ總テノ税ガ掛リマスル、然ルニ上海ナリ芝罘ニ於キマシテ我が北海道ノ昆布ト競爭スル敵ニナルモノハ露西亞ノ產ノ昆布デゴザリマス、露西亞ノ產ハ日本ノ昆布ヨリ惡ルイ、惡ルイケレドモ安イ、支那ノ内地ニハ昆布ハ至ッテ需要ノ多イ所デアリマスガ貧民ノ多イ故カ昆布ハ惡ルクテモ安イ方ガ賣レル、夫レデ日本ノ昆布ノ宜シイノヲ好ム人ハアルケレドモ少シク直段ノ違ヒガアルタメニ皆販路ハ露西亞ノ昆布ニ奪ハレ、夫レ故年々平均シタ所デ三萬圓餘ノ税ヲ蠲免セラル、時ニハ日本北海道ノ昆布ガ支那ヘ參ッテ露西亞ノ昆布ト競爭ヲシテ價額ハ大抵同様ニナル、價格ガ同一ニナル時ニハ品ガ良イト云フノデ多ク販路ヲ得ルコトガ出來ル、支那ヘ販路サヘ開ク時ニハ日本ノ北海道ノ昆布ハ今カラ幾ラ殖エテモ差支ナク往カレル、斯ウ云フ趣意デゴザリマシテ僅ニ三萬圓以上ノ税ヲ蠲免セラレタナラバ北海道第一ノ產物タル昆布ガ支那ノ販路ヲ大ニ擴メルト云フ利益ガ起ルト云フ趣意デゴザリマス、是レハ水産ノ事業ニハ最モ委シイ村田君ノ紹介デゴザリマスカラ尙ホ御質問デモゴザリマスナラバ村田君ヘ御尋ネ下スッタラ明瞭ノ御答ヘガアルダラウト委員會デハ信ジテ居リマス、

○村田保君 唯今本員ハ松岡君カラ引出サレマシタ譯デゴザイマスカラ引合ヒニ一言述べマス、併シ松岡君ハ殊ニ唯今明瞭ニ述べラレマシタカラ本員ハ別ニ喋々スルニ及ブマイト思ヒマス、夫レ故ニ本員ハ極簡單ニ少シク足ラザル所丈ケヲ補ッテ置カウト思ヒマス、御案内ノ通り水産物中デ以テ海外ヘ輸出致シマスルモノノ第一ニ位イタシマスルモノハ即チ昆布デゴザイマス、昨年海外ヘ輸出致シマシタ高即チ二十五年ハ四百二十五萬何程出テ居リマス、是レハ水産物殘ラズノ高、其中デ昆布ガ長切昆布刻昆布ト合セマシテ九十九萬四千六百二十五圓、其位出テ居リマス、其次ニ續キマスルモノデ九十萬圓以上出マスルモノハ鰯デゴザイマス、併シ昆布程澤山出マスルモノハナイ、夫レ故水産物中デ海外ヘ出マスルモノデハ最モ昆布ガ大切ナモノデゴザイマス、然ルニ唯今松岡君モ述ベラレマシタ通り又此意見書ニモゴザイマス、通り露國ハ……日本バカリデナク澤山露國カラ支那ヘ昆布ヲ輸入致シマス、然ルニ露國デハ輸出税ト云フモノガ全クナイ、所ガ日本ニハ輸出税ガゴザイマス、故ニドウモアチラ參ヘッテ露國ト競爭スルコトハ出來マセヌ、夫レ故日本ノ昆布ヨリ或ハ地方ニ於キマス始ト倍程ニ露國カラ輸入ガアルト云フ

様ニナツテ居リマス、然ラバ北海道ニ今日昆布ガドノ位アル、又此上探タラドノ位探レルカト云フコトヲ申シマス、ト下等昆布ニナリマス、ト九デ今日惡ルイ昆布ハ探ラヌノデアル、北海道ノ北見邊デハ餘程昆布ガ澤山アル、既ニ此請願者カラ直ニ本員ガ承ツテ見マスルノニ北見邊デハ馬デ通リマス、ト云フト昆布ガ澤山アリマシテ其昆布ノ上ヲ滑ツテ通レス程昆布ガ棄テアル、併シ是レハ極ク下等ノ安イ昆布、併シ夫レヲ探ツテ參ルニハ唯今申ス通り日本デハ輸出税ト云フモノガアリマス、故ニサウ云フ安イ昆布ヲ探ツテ參テハ引合ハスト云フ所カラ遂ニ馬ノ足デ滑ル程アルモノモ探ランデ居ルト云フ様ナ譯、凡ソ其邊ニ棄テテアリマス昆布ガ五六萬石位ハザツト見積ツテモアル、著シイモノデアリマス、併ナガラ唯輸出税ガアルガタメニ夫レヲ探ルコトモ出來ヌト云ツテ棄テテ置クト云フノハ實ニ遺憾千萬ノコトト本員ナドハ思ヒマス、故ニ本員ナドモ夫レ等ノ理由ヲ以チマシテモドウゾ是レハ滿場ノ諸君ノ贊成ヲセラレマスコトヲ冀望致シマス、一應是レ丈ケヲ申シマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

過半数デゴザイマス、次ニ牛疫撲滅處分ノ請願會議ヲ開キマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

表決ニ付シマス、本意見書案ヲ可トスル諸君

〔本内書記官朗讀〕

意見書案

牛疫撲滅處分ニ關スルノ件

東京府荏原郡農科大學官舍士族玉利喜造外四名呈出
右ノ請願ハ家畜ノ疫病中病勢ノ猛惡ニシテ傳播ノ迅速ナルハ牛疫ヨリ酷シキハ莫ク牛疫ノ本邦ニ入ル前後二回皆亞細亞大陸ヨリス明治五年西伯利亞海岸ニ流行スル牛疫本邦ニ入り遂ニ二府二十縣ニ蔓延シ四萬二千二百九十七頭ヲ斃シ爾後諸方ニ流行シ民產ヲ蕩盡シ國家ノ貴財ヲ殘害スルモノ擧ゲテ數フヘカラス然ルニ昨年九月朝鮮國ノ疫牛ヲ關西諸縣ニ輸入セシヨリ本病忽チ大分縣下ニ發シ其勢猖獗ニシテ僅ニ六十餘日間ニ三府十八縣ニ流行シ初發以來斃死撲殺セシモノ四千餘頭ノ多キニ及ヘリ其慘狀ノ一斑ヲ舉レハ農家ハ耕牛ヲ殞シ肥料ヲ失ヒ耕耘ニ栽培ニ一大障礙ヲ來シ牧畜家ハ肉牛及蕃殖牛ヲ失ヒ其業頓ニ萎靡シ搾乳家ハ貴重ノ酪牛ヲ斃シ破産沈淪スルモノ多ク社會一般亦恐慌シテ乳肉ノ滋味ヲ廢スルニ至レリ蓋シ軌近本邦ノ畜牛減耗セシニ今復此危難ニ遇フ營ニ當業者ノ慘害ヲ被ムルノミナラス實ニ國家經濟上容易ナラサルモノトス本病ハ常ニ亞細亞ノ高原地方ニ流行スル

ヲ以テ交通貿易ノ進歩ト共ニ病毒輸入ノ虞愈々大ナリ將來我畜產ノ安寧ヲ保全シ國家ノ幸福ヲ増進セント欲セハ疫牛ノ輸入ヲ禁止シ其本源ヲ杜絕セサルヘカラス而シテ目下ノ急務ハ朝鮮牛ノ輸入ヲ禁止シ且各開港場ニ獸類檢疫所ヲ設クルニ在リ故ニ牛疫撲滅善後策トシテ速ニ朝鮮牛輸入禁止令ヲ發布セラレタシトノ旨趣ニシテ輸入禁止令ヲ發布スルハ國際上ニ於テ不可ナリト雖檢疫所ヲ設クルハ目下ノ急務ナルヲ以テ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

○松岡康毅君 本請願ハ至ッテ分リ易イ事實デゴザイマシテ、諸君モ御承知ノ通り昨午カラ牛疫ガ流行リマシテ東京府下デモ肉ヲ喰ベルコトモ出來ズ乳ヲ飲ムコトモ至ッテ危險ナコトニナリマシテ、其結果ヲ想像致シマスレバ僅ノ間ニ何千頭ト云フ牛ヲ打殺シテ仕舞ハチバナラヌコトニ至リマシタ、其事柄ハ唯今ノ書面ニ盡シテゴザイマスルガ、夫レニ付テ請願ノ旨趣ハ此牛疫ノ始終多クアル所ノ朝鮮牛ノ輸入ヲ禁止シタイ、次ニ檢疫所ヲ設ケタイト云フ請願デゴザイマスルガ、朝鮮ノ牛ニ限ラズ先ヅ兎モ角モ條約國ノ商賣品タルモノノ輸入ヲ禁止スルコトハ如何デアラウカ委員會ニ於テハ夫レハ少シムヅカシイデアラウ、併シ檢疫ヲスルト云フコトハ是レハ適當ノコトデアアル、依ッテ輸入ヲ禁止スルト云フ點ハ委員會ニ於テハ採擇スベキモノトハ認メマセヌ、輸入ニ對シテ十分ナル檢疫法ヲ行フト云フコトハ至極適當ノコトデアラウト云フ考ヲ以チマシテ一部採擇スベキモノト議定ヲ致シマシタ譯デゴザイマス、

○田中芳男君

本案ハ唯今副委員長カラ御述ベニナリマシタ所デ且ツハ此意見書デ大抵分ッテ居ルト思ヒマス、別ニ反對ノ御論ガナイ以上ハ私ガ蛇足ヲ添ヘルニモ及ビマセヌガ、併シ此案ハ本員ハ頗ル贊成ヲ致シテ居リマスカラシテ是非トモ本員ハ通過スルコトヲ望ミマスノデゴザイマス、抑此牛ノコトニナリマスレバ別ニ唯今述ベマセヌデモ皆様御承知ノコトデアリマスガ、維新前ト云フモノハ牛ハ殺サズニ車ヲ輓カセルトカ荷物ヲ負ハセルト云フ外用ヒマセヌガ、維新後ニナリマス追々文明ノ世ノ中ニナリマシテ肉ヲ喰ヒマス、乳ヲ飲ミマス、尙ホ其外乳カラ出ル所ノモノデバたトカチストカラ拵ヘルト云フ様ナ餘程必要ナモノニナリマシテ、殊ニ近頃ニナリマシテ餘程種痘ガ流行リマスカラ必ズ牛ニ種エテ牛痘ヲ取ッテ人ニ種エナケレバナラスト云フコトニナツタカラシテ餘程ノ效用ト云フモノガ益々必要ノコトニナツテ參リマシタ、然ルニ維新後ニナリマシテ此意見書ニモアリマス通り牛疫カ流行致シテ夥シイ牛ヲ殺シマシタ、夫レニ又肉食ノ方ヘモ潰シマスカラ追々乏シクナツタト云フ景況ニナツテ居リマス、夫レ故朝鮮牛ガ聊カ安ケレバ夫レヲ輸入シテ以テ我邦ノ需要ニ應ジヤウト云フ人ガ起リマシタ、既ニ昨年ナド

ハ朝鮮地方ニ流行致シマシタメニアチラデハ一日モ早ク賣ッテ仕舞ハネバ
ニ其中ニ倒レラレテハ溜ラスト云フコトデ安クドンドン賣出スコトニナリマ
シタ、夫レヲ内地ノ商人ガ往ッテ買出シテ來ル、忽チ其毒ヲ持來シマシテ始
ハ大分縣ニ起リ續イテ東京府下マデモ蔓延スルコトニナリ、其他各地方ニ大
ナル猖獗ヲ逞ウスル様ニナリマシタ、元來獸類ノ病氣ノコトニ付キマシテハ
既ニ獸類傳染病豫防規則ト云フモノモ出テ居リマスレバ又獸類傳染病豫防心
得ト云フモノモ十九年ニ出テ居リマス、併シ此規則ト云ヒ心得ト云フモノノ
中ニモ外國カラ輸入シテ參リマスモノニ付テハ更ニ處分ガ附イテ居リマセ
ス、夫レ故ニ昨年來大イニ流行致シマシタトキモ省令ヲ發セラレタリ訓令ヲ
出サレタリシマシタ、所ガ全體海外カラ輸入シテ參リマスモノノ檢疫法ガ更
ニ立ッテ居リマセス、唯今委員長ヨリ述べラレタ通り成程此交際國ヨリ輸入
シテ參リマスル獸類ヲ禁止スルト云フコトニムツカシイニシロ檢疫丈ケノ方
法ハ豫メ立ッテ置キマセネバ從來出テ居リマス所ノ法律ニ餘程缺點ガアラウ
ト思ヒマス、夫レ故ニ本員ハ十九年ニ出テ居リマスル獸類傳染病豫防規則ノ
追加案デモ提出致シタイ考ヘガアリマシタ、併シ此請願書ガ本院ヲ通過致シ
マスレバ別段其様ナコトヲ致スニ及ビマセスト考ヘマスカラ此意見書ガ首尾
能ク政府ヘ提出ニナルコトヲ希望致シマス、全體此牛疫ノミデハゴザリマセ
ス、既ニ豫防規則ニアリマス通り馬ニシロ豚ニシロ或ハ近頃大イニ
流行致シマス雖ノ如キモノモ大イニ流行致シマス中ニハ其流行スルニ從ッテ
雞虎列刺マデモ持ッテ參ッテ内地ノ鶏ヲ大イニ斃シタコトモゴザリマスカラ、
是非トモ海外カラ輸入シテ參ル家畜ナリニハ檢疫ノ方法ヲ立テラレ
マスコトヲ希望致シマス、

○松岡康毅君 唯今此御朗讀ニナリマシタ中ニ誤字ガゴザリマスカラ正誤
致シタウゴザリマス、二十二頁ノ第六行目ニ「今復危難ニ遇フ」トゴザリマ
ス、此危ト云フ字ハ厄難ト云フ字デ頭ガ多過ギタノデ、危難トゴザリマスノ
ハ厄難ニ遇フト云フ誤植デゴザリマスカラ申上ゲマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 表決ニ付シマス、本意見書ヲ可トスル諸君ノ
起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザリマス、先刻本席ニ御委託ニナ
リマシタ版權法案及出版條例改正法案ノ特別委員ヲ選定致シマシタニ依ッテ
御報告ニ及ビマス、公爵徳川家達君、伯爵大原重朝君、子爵關博直君、男爵
千家尊福君、三浦安君、男爵西五辻文仲君、金井之恭君、山脇玄君、菊池三
郎君、本日衆議院提出狩獵法案ヲ受領致シマシテゴザリマス、此段御報告ニ
及ビマス、次ニ明日ノ議事日程ハ午前十時開議、第一、取引所法案、政府提

出衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告、第二、商法及商法施行條例
中改正並施行法律案、政府提出衆議院迴付、會議、第三、登記法改正法律案、
衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、本日ハ散會、
午後零時二十分散會